

●審議会での委員の皆様のご意見・ご提案、及び事前質疑表のご意見・ご提案を抜き出しております(最終の答申案の取りまとめ作業の参考資料として作成しています。)

●No.47～第3回審議会(4/28開催)のご意見を掲載しております。

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
1 第1回審議会	まちづくり人口の推計条件について。出生率・移動率等の改善条件が、後期計画期間前から反映されているのは違和感がある。	基本構想 3計画策定の背景 (1)三田市の特徴 【ウ】人口の動向 まちづくり人口	推計条件を計画開始年の2027年から影響させるように再試算予定
2 第1回審議会	プラットフォームワーカーやギグワーカーなどの増加など、さらに働き方の多様化が進むことが予想される。大企業を中心にサテライトオフィスの設置が進む中、「仕事と豊かな自然を両立できる三田市」は、非常に魅力的なポテンシャルを持っているのではないか。	基本構想 3計画策定の背景 (3)社会潮流 エ ローカル経済の振興	基本構想に多様な働き方の広がりについて追記を検討
3 第1回審議会後質問票	・「幸せ」という主観的な指標は、「行政のコントロールが及ばない外部要因」に大きく左右される性質を持っている。幸せ実感度と幸せの構成要素の因果関係を整理することで、行政サービスがどの構成要因で市民の幸せの基盤を支えているかを、客観的に証明・説明できる評価体系になる。 ・市の施策と、幸せ実感度で、どのような因果関係を想定しているか。	基本構想 3計画策定の背景 (1)三田市の特徴 【エ】指標の体系化と最上位指標の設定 を新設	総合計画の取り組み(施策)と幸せの構成要素についての関連性を示す方向で検討
4 ・第1回審議会 ・第1回審議会後質問票	・25の施策同士の、横のつながりや関係性が重要である。計画上で、施策間の連携をきちんと取ることを記載し、横の関係性をどう把握するかに注力したらよい。 ・KGIの施策満足度が改善するまでには、時間的・論理的な距離があるようなKPI（実質公債費比率など）がある。 ・全施策共通でKGIに「施策重要度」が設定されているが、施策の性質に応じて「施策重要度」を外すなどの柔軟な運用が、より実効性の高い進行管理に資する。	基本構想 3計画策定の背景 (1)三田市の特徴 【イ】施策間連携等による横断的な取り組み 基本計画の各取り組みの指標 2 5 行政経営	・指標一覧を作成(指標間のつながり、長期的視点の指標、施策重要度をKGIにするか、KPIからKGIへの格上げがないか等を整理) ・取り組み25行政経営では、施策重要度をKGIから外すことを検討。
5 ・第1回審議会 ・第1回審議会後質問票	・幸せかどうかを判断するのに重視する項目という設問で、選択肢「国・県・市などの行政サービス」がかなりざっくりしている。自分の幸せに寄与したような行政サービスが、具体的にどこ（国・県・市）のどのようなものか、また、あったらいいなと思うのはどのようなものかを合わせて聞き取るというのもよいのではないか。 ・「幸せ」について普段考える機会は少ないため、回答に戸惑わないよう、質問の仕方を工夫する必要がある ・家族形態の多様化が進んでいるため、設問の仕方、結果の表記にも注意が必要 ・若い世代へアンケートを届けられる仕組み ・「このまち」は「三田市」とした方がわかりやすい。「私の暮らす地域」と「わたしの暮らす地域」はどちらかに統一した方がよい。	幸せ実感度調査	令和8年度市民意識調査(幸せ実感度調査)実施に際して参考にさせていただく
6 第1回審議会後質問票	行政評価において、5年固定の評価指標に意見がでるが「見直し時に検討」との回答になる。それらがどう反映されているのか、もしくは今後も5年固定なのか検討いただきたい。	行政評価関係	『基本構想』において、「行政評価等を踏まえてKPIを変更することがあり得ること、そのことを行政評価の際に議会へ提示する必要があること」等の記載を検討
7 第1回審議会後質問票	前期計画からの変更点についてわかりやすいようにまとめてほしい。	審議会の資料	前期計画と後期基本計画(素案)が比較できる審議会資料を作成
8 第1回審議会後質問票	・関心の有無のみならず、そもそもまちづくりや地域活動を知らないという問題があるので、それは協働・共創の大前提として取り扱ったほうがよい。 ・新たな住民や交流人口、事業者、市外の方々が、小さなことからでもまちづくりに関わり始めやすい状況をつくるのが重要。 ・協働・共創の取組の認知度（知っているか）が今後重要になる	2 4 協働・共創のまちづくり	・情報発信の充実や参加のきっかけづくりに取り組むことが重要であるとの考えのもと検討を進める。 ・居住期間や関心の有無にかかわらず、まちをよくするために関わっていただく方々の多様な意見が尊重され、緩やかなつながりとしての関わり方が選べる環境を整えるなどの検討を進める。 ・「まちづくりへの関心度」をKPI、市民一人ひとりの意識が大切なため「施策重要度」をKGIに設定済み
9 第1回審議会後質問票	幸せ実感度調査に表れている行政サービスに対する満足度の低さが、一体何に起因するものなのかを十分に理解する必要がある。 デジタル技術活用関連のKPIは、「手続きの割合よりも、全市民の何割が使ったか等の実際の稼働」でもって評価するのが望ましいのではないか。	2 5 行政経営 ◆評価指標	・令和8年度市民意識調査(幸せ実感度調査)実施時に行政サービスの詳細を聞き取る。 ・指標の変更(実際の利用率)を検討

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
10 第1回審議会後質問票	・市の取り組み3「新たな価値を創造する公共施設マネジメントの推進」について、成果指標にあげるべきではないか。 ・施設の統廃合や総量の縮小は、短期的には市民の利便性に影響を与える可能性があり、KGIに設定されている「施策満足度（このまちは、行政サービスが充実していると感じる）→不満である～満足している）」の低下を招く恐れがある。この取組においては、満足度以外のKGIを指標とするなど、取組の実態に即した評価指標の設定が必要ではないか。	2 5 行政経営 ◆評価指標	・平成29年3月策定「三田市公共施設等総合管理計画」において、令和28年までの30年間で延床面積を12%削減(約43,000㎡削減)することを目標に掲げているが、各施策の方針決定やその進捗状況を踏まえ、市民への丁寧な説明などを経て、将来の公共施設の適正な配置を描く必要があり、現在その取り組み段階である。R9～R13を対象とする第5次総合計画後期基本計画の期間内に公共施設マネジメント単独で具体的な指標数値を示すことは困難であり、KPI(活動指標・取組指標)は設定しないと考える。 ・「25行政経営」は公共施設マネジメント以外にも、幅広い取り組みがあるため、市民満足度のKGIは必要だと考える。
11 第1回審議会後質問票	【市の事業・取組への提案】 ・結婚し子育ての時期に入り、再び住み慣れた「ふるさと」に住居を求めてUターンする状況を促進するために、市職員の中途採用を増やし、地域に貢献したい優秀な人材の採用を積極的に行い、また定年退職した有能なシニア人材の登用にも力を入れてはどうか。 ・ふるさと納税について、三田のブランド化を本気でを行い、差別化された新しい商品開発（モノやサービス）やSNSを駆使したPRなどを専門人材を採用し実践すれば、獲得余地がまだまだある。民間の有識者や三田の事業者とチームを組み、ロードマップづくりからスケジュール、KPIを設定して進めていくことを提案する。	2 5 行政経営	市の取組へのご意見として参考とする。
12 第2回審議会	資料の「市民の意識や行動が取り組みの効果を左右する場合には、市民が当該取り組みを『重要だ』と感じるようになることが『成果』と考えられる」という記述については、因果関係が逆になっているのではないか。	第2回資料10-1「幸せ実感度」について	資料の表現修正を検討
13 第2回審議会	【情報発信へのご意見】 ・現状では情報提供が一方的で、参加型の情報共有が十分ではない。情報発ツールの協力者件数、SNS上での具体的な反応等を把握する仕組みを整え、参加型の情報共有をさらに重視すべき。 ・LINE情報など直接転送したりチラシをダウンロードして共有できる仕組みがあれば便利。 ・市のイベントで多くの方に楽しんでいただくために、市内だけでなく、市外の参加者にも情報が届くよう工夫が必要 ・市HPを頻繁に見る市民が少ない。情報発信の工夫が必要。 ・市民が必要な情報を身近な機会で見られる仕組みが必要。さんだまつりなどのイベントで、市の活動や困りごとへの対応を紹介する取組が広報活動の充実につながるのではないか。 ・学校等への一斉メール配信では情報量の多さや表現の難しさで読みづらいという声もある。市として「配信しただけ」で終わるのではなく、必要な人に情報が正しく届く方法を再検討すべき。 ・発信の仕方がより問われる。様々な分野で情報の伝え方について、多様な手法を試行しながら、評価・検証を重ねて改善していく姿勢が必要。	2 4 協働・共創のまちづくり	市民の活動や地域課題への関心を高めるため、広報誌を活用し情報発信の工夫を重ねてきた。今後もSNSなどを活用しながら、情報発信を強化していきたい。いただいたご意見は市の取り組みの参考とする。
14 第2回審議会	取り組み1から24は「市民の幸福度」という目標に対して相互に補完し合い、効果を最大化する構造と理解しているが、各取り組みの連携には改善の余地がある。特に取り組み25では行政経営を重視しているが、全体の取り組みをどのように組み合わせる相乗効果を生み出すかという視点が若干不足している印象を受ける。	基本構想 3 計画策定の背景 (1) 三田市の特徴 【1】施策間連携等による横断的な取り組み	基本構想で「各取り組みの連携を行う」方針を明記。現行の内容を充実させる方向で検討
15 第2回審議会	KPIは「減少」「維持」等で設定するよりも、数値化できるものは数値化すべきではないか。	基本計画の各取り組みの指標	出来る限り数値化を検討
16 ・第2回審議会 ・第2回審議会後質問票	・KGIの施策重要度は上げ続けるものか。構想全体の施策間連携で扱うなど、一律全てではない扱いもあり得るのでは。 ・「施策重要度」をKGIに設定することについて、「重要度」は、社会情勢やメディアの報道、市民の個人的な関心など、市の取り組み以外の外部要因で大きく変動すること、市の施策が完璧に機能すれば「重要度（切実さ）」の数値が下がる可能性があることなどから、KGIに「施策重要度」を加えることについて、慎重に判断する必要があるのではないか。	基本計画の各取り組みの指標	市民意識調査における「施策重要度」は、当該項目についての取り組みが社会や自身にとって『必要と感じる度合い』を示すものと考えている。市民が総合計画に定めるそれぞれの取り組みに関心を持つことは、まちづくりを進める大きな原動力になる。総合計画に定めるそれぞれの取り組みを必要であると感じる方々が増えることは、行政にとってはもちろん、活動する市民の方々にとっても、極めて重要であり、そのための啓発や広報を行なっている。そのため、これまでの取り組みによる現在の状態に対する市民の評価である満足度に加えて、重要度もKGIとして設定している。 総合計画の取り組みによっては、市民や事業者の活動が大きく寄与するものもあり、そのような取り組みにおいては、満足度よりも重要度が指標として重要であると言える場合もあるので、複数あるKGIに優先順位を付することも検討。
17 第2回審議会後質問票	どの取組とどのKPIが対応関係にあるのかが分かりにくいものもあるため、取組とKPIとの対応関係を明記してはどうか。	基本計画の各取り組みの指標	各取り組みとKPIの対応関係を意識する必要があると考えるため、後期基本計画素案の「2. 10年後に心配される三田の状況」→「3. 10年後に目指したい三田の状況」の欄外に、現在、市の取り組み番号がリンクしているが、その横に評価指標をリンクさせる欄を追加する。(審議しやすい資料にするための変更)

	審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
18	第2回審議会後質問票	KPIがアウトカムを計測するものになっているかどうかについて、今一度確認してはどうか。	基本計画の各取り組みの指標	実際の成果や影響を測定するアウトカム指標の重要性を認識し、KPIを確認。設定したKPI等について、検証を行った結果、成果につながるような関連性が認められない場合は、『基本構想』において、「行政評価等を踏まえてKPIを変更することがあり得ること、そのことを行政評価の際に議会へ提示する必要があること」等の記載を検討。(No6回答と同様)
19	第2回審議会後質問票	審議会で委員が一回は気楽に発言できるような仕組が必要	会議の運営	・審議会の座席配置の変更等
20	第2回審議会後質問票	市の取組と幸せ実感の因果関係について、例えばAという取組によって〇〇という幸せ実感が向上すると具体的に明示できないか。	基本構想 3計画策定の背景 (1)三田市の特徴 【エ】指標の体系化と最上位指標の設定を新設	一人ひとりの「幸せ」は千差万別である以上、「〇〇をすれば幸せ実感が向上する」という因果関係を、あらかじめ仮定することは難しいと考える。ただ特定の取り組みが幸せ実感度調査(市民意識調査)で前提としている「幸せの構成要素」に対して与える(与えたい)インパクト等については、整理することができると考えるため、幸せ実感度調査(市民意識調査)における「幸せの構成要素」と総合計画の各取り組みの想定される関連性を示す資料を作成(No3回答と同様)
21	第2回審議会後質問票	市の取組3「特別な支援が必要なこどもたちへのアプローチ」に対応したKPIが評価指標一覧の中に見当たらない。「支援を受けている保護者の安心感」といったようなアウトカム指標を設けなければ、この取り組みが成功したかどうかを客観的に判断することが困難ではないか。	4.乳幼児期の育ち ◆評価指標	年次によって対象児童の状況も変わり、こどもの特性について、保護者の理解を得られないケースも多く、この取り組みによる成果指標の設定は困難だと考える。
22	第2回審議会後質問票	【市の事業・取組への提案】 「②科学技術に親しみ・・・」の項に人と自然の博物館の連携については触れられていない。ひとはくは、単なる「展示施設」としての枠を超え、国内の自然史博物館の中でもトップクラスのアカデミックな評価を受けているのでアピールしてはどうか。	5.地域ぐるみの子育て	「②科学技術に親しみ・・・」内の「産学公民と連携して～」には、人と自然の博物館も含んだ記載となっており、学校における環境学習などをはじめ、「こうみんプログラム」など様々な分野で連携をしている。人と自然の博物館は三田市の大きな魅力であることを認識しており、引き続き人と自然の博物館との連携についてのアピール等、市ホームページなどで発信する。
23	第2回審議会後質問票	地域ぐるみでの子育ては、支える側の満足や継続性も大切なので、例えば成果指標「トライやる・ウィークに「来年度以降も協力したい」という事業所の割合」を、もう少し幅広い支援主体の「協力したい」「やりがいがある」という指標に広げられればよい。	5.地域ぐるみの子育て ◆評価指標	指標として設定している「トライやる・ウィークに『来年度以降も協力したい』という事業所の割合」は、「地域ぐるみでの子育て支援における、幅広い支援主体の協力意欲と継続性」を捉える指標として、有効であると考ええる。
24	第2回審議会後質問票	市の取組1「学校・家庭・地域の連携・協働の推進」に対応したKPIが評価指標一覧の中に見当たらない。コミュニティ・スクールの推進などの活動が、学校や地域の「満足度」や「教育環境の改善」にどう寄与したかを測る指標が必要ではないか。	5.地域ぐるみの子育て ◆評価指標	市の取組1「学校・家庭・地域の連携・協働の推進」に対応するKPIは、「トライやる・ウィークに『来年度以降も協力したい』という事業所の割合」として設定している。この指標は、学校・家庭・地域の連携・協働が効果的に推進されているかを示す、有効な指標であると考ええる。
25	第2回審議会後質問票	市の取組4「こどもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進」に対応したKPIがないので、見守り活動の結果としての「犯罪・事故発生率」や、情報リテラシー啓発後の「ネットトラブル件数」など、目指す状態を測る指標が必要ではないか。	5.地域ぐるみの子育て ◆評価指標	「こども達が加害・被害となったネットトラブル相談件数」をKPIとして追加することを検討
26	第2回審議会後質問票	こうみん未来塾の数値関連、人数から満足度へ変更があったが、満足度の高いものを数多く提供することが重要だと思うため、単純な割合ではなく、人数も把握できるような指標の方がいいのではないか。	5.地域ぐるみの子育て ◆評価指標	参加人数に制限がある企画や、こどもの数が減少していくなかで、参加人数をもって評価するのは難しいと考える。
27	第2回審議会後質問票	「③多世代がつながり未来に歩む持続可能なニュータウン再生」について、ウッディタウンも急速に高齢化が進んでいるため、つつじが丘だけでなくウッディタウンも後期計画に取り組み地域として入れてはどうか。	18.まちの再生 4市の取り組み	ニュータウン再生については、兵庫県が定めるオールドニュータウンであるフラワータウン、つつじが丘に対し先行して取り組んでいる。ウッディタウンでもフラワータウン・つつじが丘と同様の課題が生じうることは認識しているが、各ニュータウンの再生に個別に取り組むのか、またその場合はどこに、いつから、どのように取り組むのかについては内容や時期が未定であることから、後期計画策定時においては、個別の名称としてフラワータウン・つつじが丘のみの記載に留める。
28	第2回審議会後質問票	【市の事業・取組への提案】 働く場所があっても市街化調整区域によって働く人が住む場所がなくては人口増加にもつながらないので、市街化調整区域区分の廃止の件と併せて考えるべきではないか。	18.まちの再生	三田市で就業される方々の住む場所の確保については、まずは市街化区域内において今後増えることが予想される中古物件など不動産流通によるものを基本としつつ、市街化調整区域における居住ニーズに対しては市街化調整区域での土地利用の弾力化の周知による対応や、必要に応じて土地利用しやすい制度を検討する。

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
29 第2回審議会後質問票	協働・共創のまちづくりとも関連するが、まち協や地区計画と連動させ、農業経営とも関連付けながら、集落型の地区計画立案を指標に加えてはどうか。	18. まちの再生 ◆評価指標	農村部における土地利用については、令和5年度に「地域住民からの申し出による市街化調整区域土地利用計画の見直し」を施行して以降、4地区において集落区域を追加し店舗の立地など土地の利活用が図られている。KPIに設定した「まちづくり組織、事業者等による都市計画提案等の件数」については、こういった動きも含めた数値としている。
30 第2回審議会後質問票	市の取組2「JR駅周辺の魅力とクオリティを高める土地利用の推進」に対応したKPIは「市街地再開発事業の区域面積」だと思うが、「区域面積」は取組の結果に過ぎないため、可能であれば取組によって「土地利用のクオリティ（地価や満足度）」がどう高まったかを計測するべきではないか。	18. まちの再生 ◆評価指標	KPI「市街地再開発事業の区域面積」は、KPI「市道三田駅前線の歩行者数」と合わせて市の取組1のKPIであり、取組2につきましてはKPIの設定をしていない。 取組2は、三田駅以外の新三田駅、広野駅、相野駅周辺におけるまちづくりに関する取り組みであり、過去に市街化調整区域であった、又は現在、市街化調整区域である各地区において、市街化区域編入や地区計画を活用したまちづくりを進めている。 複数の地域における取り組みであり、地域によって取組時期や取組内容が異なるため、当該取り組みの単一の成果指標を総合計画で設定することは困難と考える。
31 第2回審議会後質問票	市の取組3「多世代がつながり未来へ歩む持続可能なニュータウンの再生」に対応したKPIは「まちづくり組織、事業者等による都市計画提案等の件数」だと思うが、「提案の数」はアウトプットに過ぎないため、可能であればニュータウンが「持続可能（人口維持や生活利便性の向上）」につながったのかというアウトカムを計測するべきではないか。	18. まちの再生 ◆評価指標	当該KPIはニュータウンに限らず全市が対象であり、ニュータウン再生に対応したKPIは設定していない。 これは、ニュータウン再生の成果は様々な要因が複合的に絡み、特定することが難しいことや、持続可能な構造に変えていくという長期的な取り組みである関係上、人口維持の取り組みがアウトカムとして反映されるのは少なくとも後期計画期間内では難しいため。
32 第2回審議会後質問票	市の取組4「農村地域の活力と魅力を育むまちづくりの推進」に対応したKPIは「町家・古民家等再生件数」だと思うが、「再生件数」はアウトプットに過ぎないため、可能であれば取組によって農村に「人が増えたか」「交流が生まれたか」というアウトカムで計測するべきではないか。	18. まちの再生 ◆評価指標	市の取組4「農村地域の活力と魅力を育むまちづくりの推進」に対応したKPIは、「まちづくり組織、事業者等による都市計画提案等の件数」を設定している。 この提案制度は、良好な住環境の形成や地域の活力維持のために、住民が主体となって土地利用を提案するもので、地域課題に対する住民の積極的な取り組み状況の尺度になると考えている。この件数の増加から人口増加・交流発生に至るまでには住宅建築などの土地利用の発生が必要であり、一定期間がかかることから評価は難しいと考える。 なお、KPI「町家・古民家等再生件数」に対応するのは市の取組6「良好な景観形成の促進」になる。
33 第2回審議会後質問票	市の取組5「地域経済を牽引する新たな産業集積の創出」や取組6「良好な景観形成の促進」に対応したKPIが評価指標一覧の中に見当たらない。企業誘致数や市民の景観満足度などを設定する必要があるのではないか。	18. まちの再生 ◆評価指標	取り組み5の新たな産業集積の創出の指標については、誘致数ではないが、事業所の推移を把握する指標として、「施策15. 商工業の振興」に「市内民営事業所数」を設定している。 取組6「良好な景観形成の促進」に対応したKPIとして、「町家・古民家等再生件数」を設定している。
34 第2回審議会後質問票	【市の事業・取組への提案】 ふるさとUターン移住者に対して優遇施策（減税や補助金など）を設定し、2世代3世代家族の促進をしてはどうか。	19. 良好な住まい	UJIターンの方を対象に市内の空き家を改修して活用する場合に、改修費の一部を補助する「空き家リフォーム事業」を実施している。 また、若者や子育て世帯を対象とした「住み替え支援補助」では、ふるさと三田で住宅取得を促進するため、Uターン等の市外転入世帯への加算やリフォーム補助、パスカル三田の協力で「ふるさとの味(農産品)」プレゼントなどを行い、子ども世代の方々に帰ってきてもらおう取り組んでいる。
35 第2回審議会後質問票	住環境形成との連動が、取り組みとしては書かれているが、成果指標にない。 個々の施策で人口減少に対応するのは難しく、条件のよい他市との競争が厳しくなる。住環境と連動したパッケージの周知なども検討してもよいのではないか。	19. 良好な住まい ◆評価指標 総合戦略	市の取組1では景観形成と空き家対策を、取組2では住み替え・移住ニーズに応えるための住宅ストックの循環を市の重要な取り組みとして位置付け、住環境の形成に向けた評価指標として「中古住宅の流通件数」を設定している。 ご意見のとおり、人口減少対策は総合的に行うことが必要であると認識しており、ご指摘の部分については、本市の人口対策の政策パッケージである総合戦略の中に入れていきたい。

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
36 第2回審議会後質問票	・市の取組1「自然と共存した良好で快適な住環境の確保」や取組4「良質で環境にやさしい省エネ住宅の促進」に対応したKPIが評価指標一覧の中に見当たらない。ZEHの普及率や住環境の満足度などの設定が望まれる。 ・省エネ住宅の推進の程度がわかるものなどのKPI指標はなくてもよい。	19. 良好な住まい ◆評価指標	市の取組1では景観形成と空き家対策を、取組2では住み替え・移住ニーズに応えるための住宅ストックの循環を市の重要な取り組みとして位置付け、住環境の形成に向けた指標として「中古住宅の流通件数」を設定している。 取組4については、2025年4月からは全ての新築住宅に省エネ基準への適合が義務付けられており、また、2030年度以降の新築住宅はZEH水準の省エネ性能が確保されることを目指すとされていることから、自ずと、省エネ住宅の普及が進むと考えられる。加えて、中古住宅の省エネ住宅化については、把握が困難であることから、これに係る指標を掲げることは難しいと考えている。
37 第2回審議会後質問票	【市の事業・取組への提案】 ：神姫バスの神戸行き・大阪行き・伊丹空港行きの通勤バスの利用者が増加している。通勤・通学のバス活用に注力して、移住者誘致策として高速バスの利便性をアピールに活用してはどうか。	20. 交通ネットワーク	バスによる都市圏や空港への優れたアクセス性は、市の利便性と魅力を高める重要な要素であり、これまでからも移住施策において、アピールしている。この強みを活かし、公共交通を利用した移動のしやすさを効果的に発信することは、市民の利便性向上や移住促進、さらには公共交通利用者の増加に繋がることが期待できることから引き続き取り組んでいく。
38 第2回審議会後質問票	市の取組3「日常の暮らしに寄り添うコミュニティ交通の充実」に対応したKPIは「新たな地域内交通導入箇所数」だと思うが、導入した箇所数はアウトプットに過ぎないため、可能であれば導入後の住民の「移動のしやすさ（満足度）」などの成果を測るべきではないか。	20. 交通ネットワーク ◆評価指標	地域内交通の導入は、市が一方的に行うものではなく、そこにお住まいの方の移動ニーズ等に応じた運行内容を地域と一緒に十分に検討し、共に作り上げ、また運行後も必要に応じて見直すこととしている。 このため、共創により導入する地域内交通を増やしていく取り組みそのものが、公共交通サービスを充足させ、市民の誰もが気軽に移動できるまちを目指すことに繋がると考えている。
39 第2回審議会後質問票	・市の取組4「次世代につながる新たな移動サービスの実現」に対応したKPIが評価指標一覧の中に見当たらないように思う、何か指標が設定できないか。 ・新技術や次世代というワードが出てきているので、そういったところで、何か新規のKPIを設定してほしい。	20. 交通ネットワーク ◆評価指標	「10年後に心配される三田の状況」Cにあるように、近年は運転士不足に起因する公共交通サービス提供の減退が課題としてあり、これを解消する手法の一つとして、次世代モビリティなど新たな移動サービスを導入・活用することで、公共交通ネットワークを維持増進することとしている。公共交通の利用が減退していない判断指標として「公共交通利用者数」を成果指標としている。
40 第2回審議会後質問票	人口減と、更新は避けられないように思うが、水道料金の無理な値上げがない経営ができていることを示す指標は何かないか。	21. 水の保全 ◆評価指標	値上げは継続的な赤字経営や保有資金の枯渇が直接の引き金になる。特に収支の継続的な赤字は保有資金の枯渇に直結する。 このため、市民や使用者から見ると、経常収支比率が100%を超えていると黒字経営であることから、経常収支比率が最もわかりやすい指標であると考え、指標として設定している。
41 第2回審議会後質問票	市の取組1「水道水の安定供給」、取組4「新たな技術の導入」、取組6「市街地浸水対策の推進」が、評価指標一覧の中のどのKPIに対応するのかが判別しづらいので対応関係を明記すべき。	21. 水の保全 ◆評価指標	対応関係を素案に追加。(No.17回答参照。)
42 第2回審議会後質問票	【市の事業・取組への提案】 里山・自然の保全について、市の手入れも十分されていない・手入れの届かない自然公園が多くある。街路樹のように、あかしあ台で実施した公園プロジェクトを、自治会などに維持管理や利活用の裁量を委託するトライアルにしてはどうか。若い人たちにも参加してもらえるプロジェクトになりうると、地域では期待しており、協働・共創のプラットフォームにもなるかと思う。	22. 里山・自然の保全	市が単に管理を委ねるだけでなく、「専門家をアドバイザーとして派遣する仕組み」を検討し、行政も住民の皆様の活動を支援しながら、安心して活動に参加できる環境づくりを整理していく。
43 第2回審議会後質問票	「グリーン環境」がわかりにくい。市民や事業者が緑に関わる活動全てを扱うように思うが、少し整理した方がよい。	22. 里山・自然の保全 ◆評価指標	よりイメージしやすい「花や緑を育むボランティア活動箇所数」といった、平易な表現としてへの修正を検討

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
44 第2回審議会後質問票	市の取組1「里山が息づくまちづくり」に対応したKPIは「市やボランティア団体による里山林整備面積」だと思うが、可能であれば整備した「面積」そのものではなく、そこでの市民活動の活発化や生物多様性の回復などが成果指標としてふさわしいのではないか。	22. 里山・自然の保全 ◆評価指標	竹林を含む里山林の整備、それに伴う伐採木竹の循環利用の取り組みに対しての支援、また里山林所有者になり代わって市が整備を実施するなどの取り組みを進めており、まずは整備箇所(面積)が増えていくことで里山が保全され活用されていくことを目指している。 ボランティア団体や地域等の活動の活発化も合わせて期待するところではあるが、数値的な指標の設定は難しい。また生物の多様性の回復等についても箇所が複数にわたり事前事後の調査が膨大となるため指標としての設定は難しい。
45 第2回審議会後質問票	市の取組6「山並みと調和し一体的な景観を形成する街路樹の適正管理」に対応したKPIが評価指標一覧の中に見当たらないように思うので検討いただきたい。	22. 里山・自然の保全 ◆評価指標	この取り組みの最終的な目的は、市民が「潤い、安らぎ、愛着」を感じる景観を形成することとなる。景観の美しさや山並みとの調和は数値化しにくい定性的な価値であるため、個別の数値指標(KPI)よりも、施策全体の評価を示すKGI「施策満足度(市民意識調査)」で成果を測ることが最も適当であると考えている。
46 第2回審議会後質問票	市の取組3「こどもから大人まで多様な機会を活用した環境学習」に対応したKPI「環境学習への参加者数」について、参加した人数は成果ではなく、取組によって「意識や行動がどう変化したか」を評価指標に置いた方が良い。	23. 持続可能な環境づくり ◆評価指標	KPI「環境学習への参加者数」を「環境学習参加者の受講後のアンケートにおいて、『環境意識が高まった』と答えた方の割合」に変更を検討
47 第3回審議会	他の取組と比べるとここだけ、表現方法が違うので合わせるべき。(他の取り組みは状況が書かれているが、4乳幼児期の育ちのみ「めざします」という表記)	4. 乳幼児期の育ち 1. 10年後に目指したい将来像	1. 10年後に目指したい将来像の文末を「すべての子育て家庭とこどもの健やかな成長を応援するまちになっています。」に変更を検討。
48 第3回審議会	③特別な支援が必要なこどもたちへのアプローチについて、「在籍園でみるのではなく、他の施設に任せる」というように読み取れてしまう。わかりやすい表現の変更が可能か。	4. 乳幼児期の育ち 4. 市の取り組み	4取り組み市③の文末(「特別支援を必要とするこどもたちを支援するとともに、専門機関へ適切に支援をつないでいくよう努めます。」)を、下記のとおり変更を検討「特別支援を必要とするこどもたちが在籍施設で健やかに過ごせるよう支援するとともに、必要な場合は専門機関へ適切に支援をつないでいくよう努めます。」
49 第3回審議会	待機児童0の指標を後期計画でも掲げるのか。古い指標であると感じる。乳幼児期の育ちの質の部分がわかる新しい指標に入れかえれないか。	4. 乳幼児期の育ち ◆評価指標【b】	・乳幼児期の育ちにおいて、保育・教育環境の場を確保することは、行政にとって重要な役割である。今後、少子化の背景はあるものの、保育率はまだまだ伸びる要素は高く、また、保育事業者は少子化を見据え、定員の削減や撤退する動きなど大きな不安要素もあり、また駅前Cブロック再開発事業により今後対象が増える可能性もあることから、引き続き確保方策は取り組んでいかなければならず、待機児童ゼロを継続していくという視点において必要であると考えている。 *0～2歳児保育率はR6:41%、R7:43%、R8:46%) *同保育認定者数はR6:671人、R7:669人、R8:670人
50 第3回審議会	待機児童について、3号を集めるには、保育士がたくさん必要になる。保育士確保には、他市との差別化が必要。三田市独自の保育士確保の目玉事業があった方がよい。それが計画にはみえていない。	4. 乳幼児期の育ち ◆評価指標	三田市独自ではないが、「保育士就職相談フェア」は市内の全認可施設がブースを出し、出席者は約50人、採用者は約10人前後となり、その取り組む姿勢や実績について共催するハローワークからは近隣にはないものであると評価を得ている。 また、巡回支援による保育支援や若手保育士研修、キャリアアップ研修、施設長を対象にしたマネジメント相談と階層別に保育士を支援する取り組みを行い、教育・保育の質の向上とともに保育士の就労継続につながる取り組みを進めている。 個別の取り組みを総計等には書き込むのは、なじまないとともに、総計に紐づく個別計画や関連する審議会において、個別具体事業の目標、成果を示しており、施策への整合や進捗を図っている。

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
51 第3回審議会	こうみん未来塾の指標については、リピーターが多く同じ子やテーマに興味がある子の参加が多いのでは。全体の何割が参加したかなどがあればよいかもしれない。	5. 地域ぐるみの子育て ◆評価指標【b】	こうみん未来塾の目的は、第2の川本幸民を輩出するため、将来科学の道に進む種をまくものであるので、科学に興味・関心を持つ子どもたちに集まって欲しいと考えている。 これまでは、こうみん未来塾の認知度を高めるために、修了者数を指標にしていたが、ある程度の認知が進んできたため、これからは、科学に興味・関心を持った子どもたちを更に伸ばしていく取り組み(探求コースの充実等)も重要となるため、「こうみん未来塾の満足度」を指標としていくことを考えている。 なお、事業の実施にあたっては、より多くの子どもたちに知ってもらえることができるよう、引き続き情報発信に努め、全体の参加者数の状況等把握しながら、取り組みを進めていく。
52 第3回審議会	放課後子ども教室の日数ではなく、地域数などの指標に変えられないか検討して欲しい。高齢化等で担い手不足が深刻。未来が見えるような施策を書いてほしい。 日数が増えればいいという問題なのか。担い手不足が問題であり、日数を指標にされるとしんどいところがある。それよりも色んな地域でやっているという方がいいのでは。	5. 地域ぐるみの子育て ◆評価指標【c】	担い手不足の観点から、今年度、委託条件としている最低開催日数の見直しを行い、緩やかな取り組みにシフト変換をしており、委員のご指摘のとおり「開催日数」の指標を見直す必要があると考える。また、当事業が担っているこどもの居場所の確保としての視点から、こども食堂と同様に、各小学校区内に開設されていることが望ましいため、「実施校区数」に変更を検討。
53 第3回審議会	取組④インターネット上のトラブルについて啓発を進めるとあるが、どうやって進めるのか。ネットリテラシーは教育をしないと身につかないので、アクティブな方法で進めていくべき。子どもたちに実際に身につけているかテストをするという方法もありかも。 ネットリテラシー教育における参加人数などが指標になりうるのではないか。	5. 地域ぐるみの子育て 4 市の取り組み ◆評価指標	ネットリテラシー教育における参加人数をKPIとする提案については、当該教育は、警察や地域NPOから講師を招き、市内全学校において年1回、子どもたちを対象に実施しているため、参加人数を事業効果にすることよりも、その啓発の効果として、市内で発生した青少年によるネット犯罪相談件数をKPIとして設定することにより、具体的な指標として評価できると考えている。 また、委員ご提案の、テストにより子どもたちの理解度を試す仕組みなどは、今後の教育の取り組みのなかでアクティブに学ぶ機会の参考とさせていただく。
54 第3回審議会	まちづくりのポリシー的なことを追記してはどうか。	18. まちの再生 1. 10年後に目指したい将来像	市が目指すまちづくりの理念は、基本構想における「まちづくりの基本方向等」で、その方針等を示しているなか、「18まちの再生」は、中長期の時間軸から取り組む必要があるまちづくりにおいて、10年間で取り組む個別の施策を指し示している。 まちづくりは様々な施策(ソフト・ハード)が織り成すことで紡いでいくものと考えており、本取組施策のみが必ずしも担っているものではないが、本取組施策が重要な役割を担っていることは事実であるので、本取組施策で示す「10年後に目指したい将来像」に基本構想の視点を追記することを検討する。
55 第3回審議会	目標指標と連携していない取り組みについて、目標指標を設けるべきではないか。	18. まちの再生 「10年後に目指したい三田の状況」と「目標指標」の連動	B「良好な住環境を維持しつつ、住民ニーズや社会経済情勢等の変化に対応した土地利用の転換が進み、まちの魅力と活力が持続していること」については、ニュータウン再生の成果は様々な要因が複合的に絡み、特定することが難しいことや、持続可能な構造に変えていくという長期的な取り組みである関係上、人口維持の取り組みがアウトカムとして反映されるのは少なくとも後期計画期間内では難しいためである。 E「周辺環境に調和した建築や工作物の設置が行われ、良好な景観が形成されていること」について、建築物や工作物の設置は、景観計画や屋外広告物条例に基づき、届出や申請が義務付けられている。それら個別の計画は景観形成に要するに基準に照らして質的に審査を行っており、量的な指標による評価はなじまないと考える。 D「インターチェンジ周辺で新たな産業用地が創出され、地域経済の活性化を促進する土地利用が図られていること」については、令和7年5月に北摂第三テクノパークの事業化推進を一旦保留することを決定した。これを受けて、開発手法や候補地の選定などについてゼロベースでの見直しを行い、今後の方向性を整理している。現在は、開発基本構想の形成に向けた検討を進めている段階であるため、目標指標の設定は現時点では困難であると考える。

	審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
56	第3回審議会	「10年後に目指したい三田の状況」の内容は理解できるが、市の取り組み欄の記載に関しては、事業単位の内容となっているように感じる。まちの再生という大きなカテゴリーと考えたもともと大枠での記載に変えた方がいいのではないか。	18. まちの再生 4. 市の取り組み	本取組みは、基本構想で指し示す土地利用の方針等を踏まえた個別施策を記載している。 10年計画として現総合計画において進めてきた個別施策や体系を、中間時期に抜本的に見直しをすることは、全体への影響を踏まえる中で難しいと考えている。
58	第3回審議会	『評価指標 a：市道三田駅前線の歩行者数』の「○人」の「○」の部分を知りたい。	18. まちの再生 ◆評価指標【a】	歩行者数は、令和8年度の夏ごろまでに計測予定。測定後に数値を反映する。
59	第3回審議会	区域面積を目標値にすると、マンションは建ち並ぶが、賑わいは生まれない結果になる可能性が高いのではないか。	18. まちの再生 ◆評価指標【b】	賑わいの指標としては、ハード・ソフト両面の取組みとしてa・bの指標を記載している。また、賑わい創出のため、下位計画として都市再生整備計画を実施計画として策定し、取り組みを進めている。
60	第3回審議会	補助金を出して行政主導で進めるのではなく、前向きな市民を応援できた件数が重要である。	18. まちの再生 ◆評価指標【d】	良好な景観形成の維持には、歴史的な伝統建築物の外観を維持・保全すること取組の一つとして目指しているが、その修繕や利活用に向けた安全対策などには多額の費用が係り個人の資力による実施は困難であることから、費用の助成による支援を行っている。この補助金は古民家の活用によりまちの活用を目指す前向きな市民を応援するものと考えており、その活用状況が、景観形成や保全活動の進捗状況を評価するものであると考えている。 古民家の活用に向けては、今年度、所有者への利活用アンケートを実施するとともに、利活用に関する情報提供や相談対応など、積極的な働きかけを行っていく。
61	第3回審議会	2.3（10年後の部分）Eに連携する指標の記載がないが、浸水リスクを低減するための取り組みの指標を新たに設けて連携できないか。取り組みの途中であっても、これまでやってきたことを評価するためには連携する指標を設定すべきではないか。	21. 水の保全 2. 10年後に心配される三田の状況E 3. 10年後に目指したい三田の状況E	評価指標として「浸水対策を行う区域内での雨水施設設置延長(現状値:0m 目標値:200m)」の追加を検討する。 追加指標は、「10年後に心配される三田の状況のE:気候変動の影響等に伴う台風や短時間豪雨の影響により、市街地において浸水被害が発生すること。」や「市の取り組み⑥:市街地浸水対策の推進」に連携する評価指標とする。
63	第3回審議会	近年、熊の出没などで市民の生活が脅かされそうになっている事例が他市町でも発生している。三田市も例外ではなく、獣害により生活が脅かされることについて、2.3（10年後の部分）Aに追記してはどうか。	22. 里山・自然の保全 2. 10年後に心配される三田の状況A 3. 10年後に目指したい三田の状況A	「22里山・自然の保全」は里山環境や自然環境、生活環境等をどう保全し次世代につないでいくかという目指すべき姿、また生物多様性、生物との距離感を持った共存を目指すための取り組みを示している。獣害、特に熊等が人里に現れた際のみならず、野生動物と適切な距離をとること、市民の安全安心のためにはできる限りの対策(事実確認、市民への注意喚起等)をとることは当然のこととして取り組むべきであり、獣害についての記載は生物との共存を目指す本施策の取り組み等にはなじみにくいと考える。 (「10年後に目指したい三田の状況」では「人と野生動物の棲み分けができた里山のあるまち」、また市の取り組みにおいて「人の生活圏と野生動物の生息地の境界となる空間を設けること…」との記載の通り、これらに向けた取り組みは進めていく。)
64	第3回審議会	2.3（10年後の部分）Fに連携する指標（街路樹に関係したもの）を新たに設けることを検討して欲しい。取り組みの途中経過を評価することは重要であり、指標を設けなければ、何が良くて何がダメかなどの振り返りができないと考える。	22. 里山・自然の保全 2. 10年後に心配される三田の状況F 3. 10年後に目指したい三田の状況F	本市では、「街路樹の適正な育成・管理に向けた基本方針」に基づき、街路樹の計画的・持続的かつ適切な育成および管理を進めている。基本方針では、管理上の間引きの検討材料のデータとして「緑視率」を挙げているが、間引きにより数値が変動しても景観的印象は変わらず、目指すべき景観の「質」の向上という本質的な目的と整合しないデータであると考えている。 したがって、以前にお答えしたとおり、景観の美しさや山並みとの調和は数値化しにくい定性的な価値であり、個別の数値指標(KPI)よりも、施策全体の評価を示すKGI「施策満足度(市民意識調査)」で成果を測ることが最も適切であると考えている。
62	第3回審議会	『評価指標：a市やボランティア団体による里山林整備面積』について、整備した里山の面積を増やすことが機運の醸成につながるのか。三田市はもともと里山を切り開いて居住地を構えていることもあり、里山の管理には地域や市民の協力が不可欠だと考える。面積だけに着目して取り組みを進めるのではなく、機運醸成に寄与する指標に変更するのはどうか。	22. 里山・自然の保全 ◆評価指標【a】	評価指標として「里山整備に関するボランティア団体加入者、講座・体験・見学の年間参加者数(現状値:440人 目標値:500人)」への変更を検討する。 ボランティア団体への加入者数を増やすとともに、より多くの市民や学生、ボランティア団体が里山に関する様々な講座・体験会・見学会に参加体験することにより、里山の役割、魅力、重要性の意識を高めてもらい、将来にわたり三田市の里山環境の保全や生物多様性の保全、三田市の魅力アップにつなげていく。

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方 (委員意見に対しての考え方) 5.21現在
65 第3回審議会	『評価指標：c公害等に関する苦情件数』について、苦情件数が少なくなれば市民満足度が上がるという考え方が腑に落ちないため、指標を再考して欲しい。	22. 里山・自然の保全 ◆評価指標【c】	この指標は、『3.10年後に目指したい三田の状況 D』にある「…公害や悪臭・煙等苦情の発生が減少し…」に対応するもの。現在の苦情件数の約半数は悪臭で、この要因の多くは農業に伴う野外焼却となっている。苦情件数の減少は、里山と生活の調和を図る住民の相互理解を進んでいることの成果であり、市民満足度の向上に資するものともいえることから、この指標のさらなる低減を目標に取り組みを継続していく。
66 第3回審議会	①『評価指標：c太陽光発電率』について、昨今の太陽光発電パネルへの考え方（新築住宅にはほぼ太陽光パネルがついていく流れにあること、パネルを処分する際に環境へマイナスの影響を与えることなど）から、この指標を残すのかどうか検討して欲しい。 森林を切り崩して設置する太陽光発電が指標に寄与するといのであれば、指標として適切ではないのではないかと。 ②住宅については、断熱リフォームなど、エネルギー消費を減らす指標に変えてはどうか。	23. 持続可能な環境づくり ◆評価指標【c】	①太陽光パネルの廃棄問題については、2026年4月に「太陽電池廃棄物の再資源化等の推進に関する法律案」が閣議決定され、一定規模以上の発電事業者に対し、リサイクル(再資源化)が義務付けられる見通しである。次に、「太陽光発電率」は、経済産業省が公開しているデータに基づくものであり、この中で、発電設備の設置場所による区分はないことから、森林を開発して設置した太陽光発電量を除いた指標を算定することは困難である。また、森林、里山等での太陽光発電施設の設置については、規制が強化されている方向にある。これらのことから、本市において再生可能エネルギーの主力となる太陽光発電について自然環境の保全を図りながら、適切に推進していく。 ②ご意見の内容は【取組19】『3.10年後に目指したい三田の状況 D』に内包されていると考えられるが、この評価指標としては、断熱リフォームの件数等の把握は困難であることから、この最終的な結果である「市域の温室効果ガス排出量」が適当であると考える。